【授業研究２】　小学校第２学年「秋のみのりをあじわおう」

(1) 学 習 指 導 案

1　単　　元　　秋のみのりをあじわおう

2　目　　標

自分たちで作った野菜の収穫を通して，植物の成長した様子や栽培活動に楽しくかかわった思い出や収穫の喜びなどを自由に表現しながら，学校生活を楽しむことができるようにする。

3　単元について

本単元は，４月から11月までの継続的な活動である。したがって，子供の意識を素材「サツマイモ」に結び付け，いかに活動意欲が持続できるようにするかが大切である。

子供たちは，サツマイモのほかにも様々な野菜を取り上げ，畑作りをした春から実りの秋を迎えるまでの一連の栽培活動を，自分たちの手で継続して行ってきた。そのため，収穫を通して得る成就感も一層大きいものと考えられる。

そこで，本単元の指導にあたっては，次の３点に着目して授業を展開したいと考える。

(1)　環境構成

一人一人の思いや願いが生きるための小集団のグループ編成

(2)　支　　援

①　一人一人の思いや願いが生きるためのボランティア教師の支援

②　一人一人の思いを生かした適切な支援をするための実態調査

(3)　評　　価

①　活動中の子供のつぶやきや行動を分析するための観察評価

②　表現活動における作文や吹き出しなどを分析するための作品評価

③　子供の内面を見取るための自己評価と面接

4　活動計画（総時数12時間）

〈活動とつぶやき〉　　〈評　　価〉

第１次　秋のみのりをあじわおう（７時間）

〈活動とつぶやき〉	〈評　価〉
自分の育てたサツマイモを収穫することができる。（２時間） 「たべたいな。」	(関)　サツマイモを一生懸命掘ろうとしている。 (気)　一本の苗から多くのサツマイモが取れることに気付く。
サツマイモを調理する計画を立てて準備することができる。（２時間） 「おいしく作ろう。」	(関)　サツマイモの調理に必要な材料や道具を準備しようとしている。
サツマイモを調理して，おいしく食べることができる。(２時間－本時) 「じょうずにできたよ。」	(思)　上手に調理しておいしく食べるために自分なりに工夫することができる。 (関)　自分なりのめあてをもって積極的に調理しようとしている。

楽しかったことを自分の言葉で絵や文に表すことができる。（1時間）	（表）　楽しい思い出を絵や文に表すことができる。 （気）　協力すると楽しい活動ができることが分かる。

「ありがとう。」

第2次　野菜まつりをしよう（5時間）　〈略〉

5　本時の活動

(1)　目　　標

サツマイモを調理して，おいしく食べることができる。

(2)　展　　開

子　供　の　活　動	教　師　の　支　援
○　活動のめあてを確かめる。	・ボランティアの先生（お母さん方）を紹介して親近感を深め，活動が円滑にいくようにする。
○　自分のめあてを発表する。 ・なかよく楽しくやりたい。 ・自分の係をがんばりたい。 ・おいしくつくりたい。	・一人一人が明確なめあてをもって活動できるようにスローガンを掲示する。「きょうがんばることは何ですか。」 ・一人一人のがんばるめあてを掲示して，活動意欲が高まるようにする。
○　調理する際の安全面についての約束をする。 ・火　　・刃物　　・コンロ	・調理内容に応じた安全面の注意を実演してから半具体物として黒板に提示し，随時見られるようにする。 ・調理の手順は，調理カードで事前に学習しておく。
○　グループごとに調理する。 ・サツマ汁 ・ホイル焼き ・ふかしイモ	・調理活動の成就感があじわえるように，洗う，切る，煮る，焼く，ふかすなどの活動と深くかかわれるような小集団12のグループを編成する。 ・ボランティアの先生には，事前に，子供たち一人一人が意欲的に取り組めるよう，個に応じた①見守る，待つ②理解する，励ます③助言する④教えるの4つの支援の仕方を説明し，共通理解を図っておく。
○　会食する。	・ここでの活動は子供にできるだけ任せる。
○　後片付けをする。	・調理の先生にお礼が言えるようにしておく。
○　今日の活動を振り返り，いいとこさがしをする。	・「きょうよかったことは何ですか。」と問いかけ，自分自身のよさへの気付きが深まるようにする。

(2) 本時に至るまでの展開

① サツマイモ掘りで勤労の体験をあじわう（第１時）

サツマイモの頭が見えてきた時の子供たちは，その喜びを次のように表現している。

> つるが教室の床から天井まであった。つるがすごくいっぱい伸びて，いもはでぶになっていた。つるをとろうとしたら，下でもぐらがつなひきしているみたいでした。引っぱったらしりをぶっちゃった。いたかったです。でも，大きく育ったし，いっぱいとれたからよかったです。

いつもは活動意欲に欠けるＡ男が生き生きとサツマイモ掘りに取り組んでいた。最後まで活動が持続し，一つ一つのサツマイモを傷めないようにていねいに土を掘り分けていた。女の子に，土の固い所を自分から進んで掘ってあげながらサツマイモの引き抜き方を説明していた。

② 収穫したサツマイモをどうするかを話し合う。（第２時）

全員一致で自分たちで料理して食べてあげるのが一番喜んでくれる，という結論に達した。そこで，学習するための基本的な学習条件が，子供たちにどの程度準備されているのかを次の三つの観点からとらえることにした。

・生活経験の広さ（行動分析，作品分析）◎～十分広い，○～普通，△～狭い
・普段の学習態度（行動観察）「持続性（粘り強さ）」，「協調性」（◇有，◆無）
・本単元の学習にかかわる体験（質問紙法によるアンケート調査）

項目／氏名	生活経験	学習態度	本単元の学習に関わる体験					
			コンロ	包丁	作った	食べた	好み	作りたい
	○	持続◇，協調◇	２回	３回	無	ホふや	好	ふかし
	△	持続◇，協調◇	５回	３回	汁ホや	汁ホや	好	ふかし

〈ホ：ホイル焼き，汁：サツマ汁，や：焼いも，ふ：ふかしイモ〉

実態調査の結果，子供一人一人がサツマイモと深くかかわりながら，自力解決していくべき技術的内容（指導を要するもの）が浮き彫りにされた。

そこで，ボランティア教師との事前打ち合わせをした。小グループ12編成の担当者を決め，学習指導案に，子供の活動に対する支援するタイミングとポイントについて協議した。

③　サツマイモ料理を作る計画を立てる。(第３時)

第２時に，自分の作りたい料理の作り方を家の人に聞いてくるようにした。

④　サツマイモを料理する当日の役割分担について，グループごとに話し合い，子供一人一人が「がんばるめあて」を書く。(第４時)

(3)　指導の手だてに対する考察

①　環境構成について

小集団の料理別グループで活動した結果，活動に深くかかわることができ，活動する喜びと自力解決できた充実感をあじわえたようである。活動意欲は，最後まで持続し，振り返りの段階の「いいとこさがし」では，活動のめあてと結び付いた発表が次々と出ていた。

②　支援について

ア　ボランティア教師を導入した結果，次のようなプラス面が見られた。

・技術的な支援が徹底され，子供一人一人が，自力解決できた充実感をあじわえた。

・料理中，教えてもらった内容が30項目あったが，「包丁は猫の手で切る」「おたまにみそを入れて，はしでとく」などお母さんの生きた生活の知恵を学ぶことができた。

・「これあげる。」「これ，○○さんの分です。」「ぼくのも半分あげるよ。」などと言いながらさらやはしを用意したり，またお別れのあいさつの時，自然に拍手が生まれ，「ありがとうございました。」という元気一杯の言葉などが聞かれた。一つの活動における支援という交流を通して生まれた感謝の気持ちの表れといえる。

イ　ボランティア教師を導入しての課題は次のようである。

・事前打ち合わせで徹底したつもりであるが，どこで助言すべきか，どこから任せるべきかという判断が難しく，活動の集中を中断したり，経験すれば納得できるような内容を先取りした支援も見られた。

・活動時間を配慮するあまり，ボランティア教師が活動の中心となり，円滑には流れたが，子供が試行錯誤しながらの活動はやや少ないように思えた。

ウ　本時の活動のための実態調査を綿密にしたことにより，小集団グループ編成が的確にでき，学級の子供を個と全体に分けて見取ることが容易にでき，多様な支援活動ができた。

③　評価について

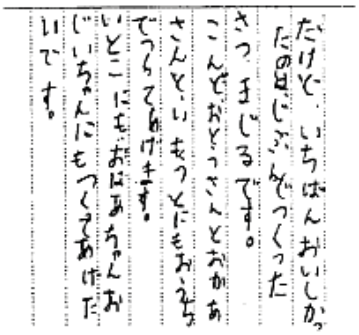
ア　自己評価及び面接からとらえた子供の変容

本時の活動で体験した項目は全体で22項目であり，子供一人の体験数の最高は７項目（洗う，切る，皮むき，鍋への水入れ，具入れ，おたまで味見，さいばしでつまむ）であり，最低は３項目（洗う，切る，さいばしでさす）であった。だれもが切る，洗うの体験をしていた。特に注目すべき点は，ふだん持続性や協調性に乏しいと思われていたＢ男やＣ子，生活経験が狭いと思っていたＤ子やＥ男などが積極的に取り組み，４項目から６項目の体験をしていたことである。

また，自分でできるようになったことに関しては，「包丁で切れる」と「ガスコンロが使える」の２項目がほとんどを占めていた。

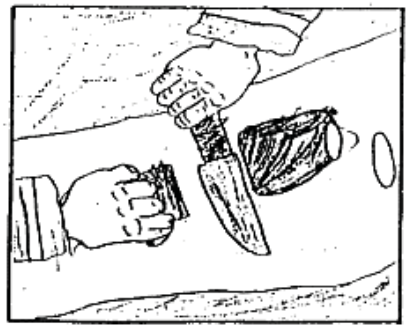
イ　作品からみた子供の変容

【子供の作文】


だけど、いちばんおいしかったのは、じぶんでつくったさつまじるです。
こんどおとうさんとおかあさんといもうとにもおしえてつくってあげます。
いとこにもおばあちゃんおじいちゃんにもつくってあげたいです。

自分の力でサツマ汁が作れた喜びを素直に表現している。

【子供の絵】



包丁が使えた喜びと充実感が感じ取れる。

【子供の吹き出し】

収穫したサツマイモを料理しようと，わくわくする気持ちが伝わる。

ウ　ボランティア教師がとらえた子供の姿

ボランティア教師による評価はグループ内で直接交流をしているため，子供一人一人のつぶやきや取り組む姿勢を的確にとらえている。

<記述用紙>

・家庭でお手伝いをしている子はてきぱきしていた。
・材料の切り方がほとんどわからない。
・料理をする前に手を洗わなかった。
・自分達で作ったという喜びがあり残さず全部食べた。
・熱度がきちんとしていた。
・無駄話もしないで一生懸命作っていた。
・後片づけをやる子，やらない子がいた。

(4) まとめ

研究主題の「活動する喜びをあじわう」「自ら問いかけ，解決していく」に照らした本単元の子供の姿は，次のようである。

○　子供一人一人は，「おいしいサツマイモの料理をつくろう。」という意識をもって，最後まで意欲的に取り組んでいた。

○　子供一人一人は，「自分の思いを生かしたサツマイモの料理を作る」という活動の中で，様々な体験ができる喜びを感じ取っていた。

○　子供一人一人は，ボランティア教師の支援を受けながらも，自分たちの力でサツマイモ料理をつくることができたという充実感をあじわっていた。

本単元では，子供の思いや発想を十分に生かして展開してきた。それは，子供の発想や感性が豊かで，子供に学ばなければならないと考えたからである。この豊かな発想や感性を埋もれないように耕していかなければならない。また，素材として取り上げたサツマイモにも，豊かな内容が含まれており，学習素材として価値あることを改めて感じた。